

経営比較分析表（令和6年度決算）

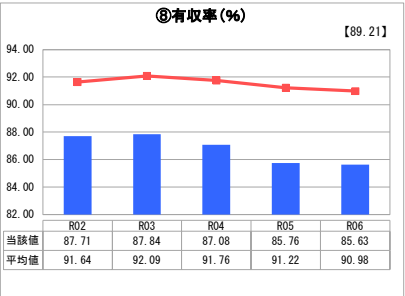
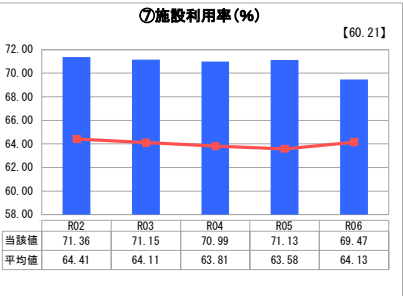
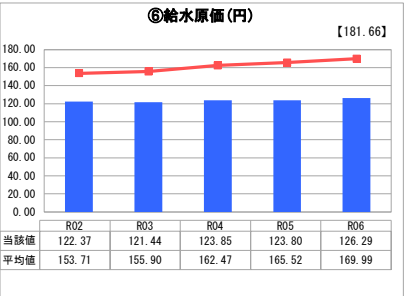
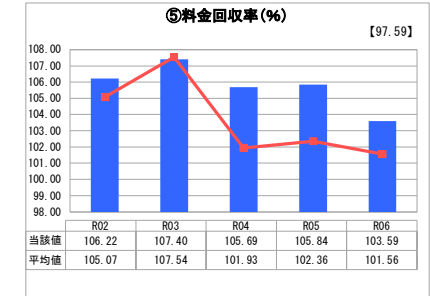
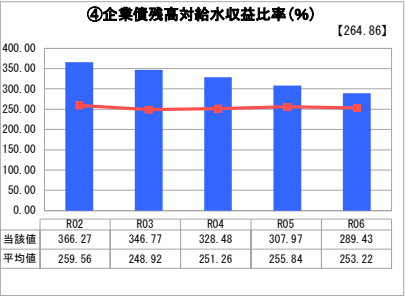
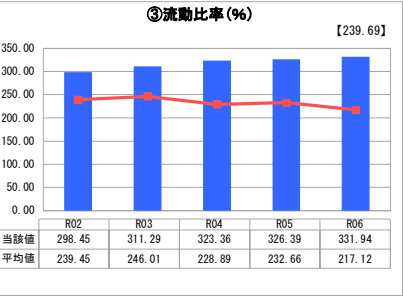
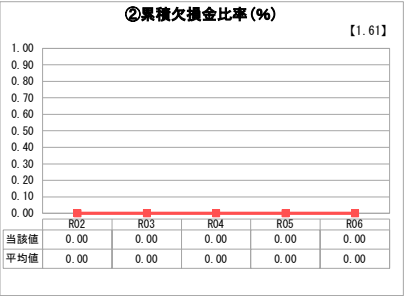
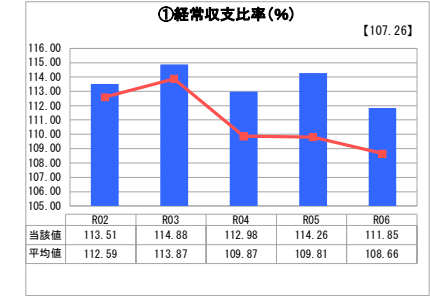
群馬県 高崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.86	99.69	2,330	

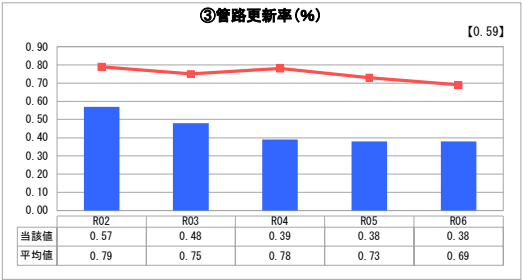
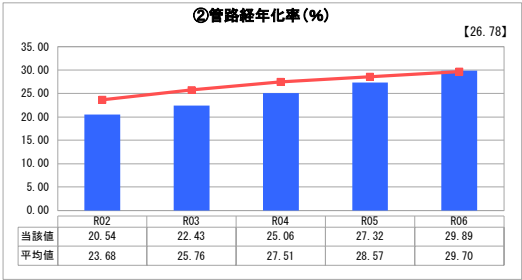
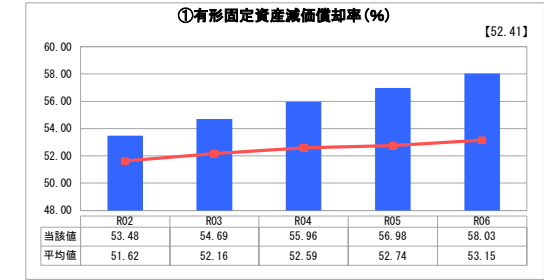
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
365,972	459.16	797.05
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
363,500	248.82	1,460.90

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」及び「③流動比率」は、共に類似団体平均値を超えており、望まれる水準を上回っていることから、現時点で経営の健全性は保たれている。

「④企業債残高対給水収益比率」は、企業債残高の減少に伴い継続して減少しているが、類似団体平均と比して上回っているため、計画的な投資と財政状況のバランスに考慮して、企業債残高の更なる低減に努めていく。

「⑤料金回収率」、「⑥給水原価」及び「⑦施設利用率」からは、概ね効率的な経営ができていると考えられるが、更なる収益性の向上のため、漏水対策等により「⑧有収率」の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。

2. 老朽化の状況について

類似団体平均値と比して、「①有形固定資産減価償却率」は高く、「②管路経年化率」は同水準であり、両指標ともに数値が増加傾向にある。そのため、「③管路更新率」の向上と併せて、老朽化した施設や管路の更新を今以上に進めていく必要がある。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」については、概ね効率的な経営ができていると考えられる。一方で「2. 老朽化の状況」においては、施設の老朽化が確実に進行しており、限られた財源の中で、効率的に更新を実施し、災害に強い施設・管路の構築を進めていく必要がある。しかしながら、依然として「④企業債残高対給水収益比率」は類似団体平均を上回っており、計画的な投資と財政状況のバランスも考慮しなければならない。

給水需要が減少傾向にある中、将来にわたる健全経営を継続し、本市が掲げる「良質な水道水の安定供給」を継続するためには、中長期的な視野に立った「計画的な投資」と更なる「経営コストの削減」など、これまで以上に「合理性・効率性」が求められる。常に財政状況や財政見通しを点検し、必要に応じて適切な措置を講じることにより、施設・管路の更新にかかる財源を確保する必要がある。